



We are OK!

暑い日が
続いています。
お体を大切に!

2022 7. 20 (水)

人権・同和教育担当

友池 弘治

7/2 人権参観、人権講演会への参加 ありがとうございました!



今回の人権参観、人権講演会は「多文化共生」をテーマに実施しました。国際化は都市圏だけでなく、日本中のあらゆる地域で進んでいます。しかし、ヘイトスピーチ等に見られるように、不理解からの偏見や差別で、他者を排斥しようとする行動もみられます。インターネット上での心ない人権侵害も後を絶ちません。様々な文化や習慣をもつ者同士が楽しく生活していくには「お互いに理解をしあうこと」「温かいコミュニケーションを続けること」が大切になります。糸島市でも日常生活の中で、様々な国にルーツをもつ方と関わる機会が増えていることは、皆さんも実感していることと思います。今回の人権参観と講演会が、東風校区の皆さんにとっての「多文化共生」のきっかけとなったことと確信しています。ご参加の皆さん、ありがとうございました。

【学習参観】

糸島市人権教育教材

『人権教育の手引き4』

～多様な文化を理解し、ともに生きるために～

【人権講演会】

「共に生きる社会へ

～違いを楽しむ、豊かな感性を～」

講師 多文化共生教育啓発団体「ハナ」

代表 徐麻弥 (ソ マミ) 様



「糸島市多文化共生推進計画」の具体化のために作られた教材集です。小学校から中学校の各段階に合わせた実践事例を掲載。糸島市の全ての小中学校で、来年度から完全実施となります。本校は今年地域公開をしました。

韓国籍の在日朝鮮人3世。高校時代の朝鮮文化研究会活動や、大学から卒業後と、多くの在日同胞と出会い、それぞれの抱える生きづらさや社会問題に向き合われた経験をもとに、講演会活動を通して人権啓発活動に取り組まれています。



福岡県人権教育学習資料
「KARA FULL NO.6」より

人権講演会の感想より

- 自分がヘイトスピーチには関係がない、スピーチをしないから学習しないではなく、やっている人の気持ちを変えていくとよいと考えました。身の回りに辛い思いをしている人がいると、相談にのりたいです。話してくれたら「自分を信じてくれてありがとう」と思って聞きたいです。(6年生児童)
- お話の中にあつた「やさしさ、勇気」と合わせて、「違い、個性、一人一人を大切に思うこと」を意識したいと思います。講演会の晩、さっそく子供たちにも話をしました。(保護者より)
- また聞きたいです。差別のない自分らしい自分をこのまま出し、お互いを認め合い楽しい日々を生活を、社会をみんなが生きていけるようになりたいです。(学校運営協議会、区長さんより)
- 楽しく、小学生にも理解しやすく話されていました。差別はどこにでもあり、子どもは知らないうちに差別に迷ってしまうことがあります。そのために、人権学習が必要であることが理解できたのではと思います。(地域の方より)

「人権教育の手引き4」を用いた「多文化共生」の授業の様子

1, 2年生は同じ教材を使用しましたが、学年の子ども達に合わせた工夫をこらしています。国ごとの食や遊び等の文化を通じて、日本との似てるところや違うところを、楽しみながら学びました。



1年生
ちがうところ おなじところ



2年生
ちがうところ おなじところ

3年生は、身近なところにある外国を感じる学習。今年から使用している地図帳を見ながら、楽しく世界巡りをしていました。その後、給食時間でも、外国の料理に興味をもって話す様子が見られています。



3年生
世界の料理！いろいろ

ちがいを知り、ちがいを楽しむ。
自分の中の先入観に気付く。
みんなが幸せな世の中を考える。
各段階に合った学習を行いました。

4年生 ブラジルからの転校生



4年生は、「〇〇の国の人には△△が得意！」という先入観をもつのではなく、その人自身の個性を大切にしながら、関係を深めていくことの大切さを考えました。大人にとっても大切な視点です。

5年生 カタチムラ



5年生は抽象的な絵で展開される話をもとに、自分たちで絵本のテーマの「多様性」に気付いていく学習です。なぜ多様性の尊重が大切なのか、どうすれば大切にできるのか、友達と考えを交流しました。

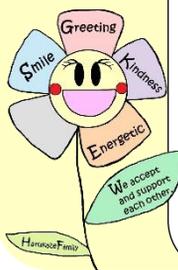
6年生
欲しいものと 必要なもの



6年生は「自分にとって不要に思うものも、相手にとっては文化的に大切なものがある」ことを、ワークショップを通して理解していききました。異文化と出会う時に、とても大切な視点となります。

授業の感想より

- ・じゃんけんをして楽しかったです。外国にもいろいろな言葉があるんだなと思いました。みんないろいろな外国の言葉を知っていて、すごいなと思いました。
- ・いろいろな言葉や洋服、食べ物がそれぞれ違うんだなと思いました。世界中のじゃんけんが、こんなに楽しいんだなと思いました。
- ・料理の国の場所をみんなでするのが楽しかった。どの国の料理もおいしいです。
- ・「どこの国の人だから」と決めつけずに、ちゃんと知ることが大切だと思います。ばくも決めつけられるのはいやなので、ちゃんと話したいです。
- ・見た目などで分けたり差別したりするような自分より、それぞれの個性を光らせて全ての人が生きていけるように、差別をしない自分になりたいです。
- ・自分や友達が「いらない」と考えたピアスも、他の国では、願いがこめられていたり、つけるのが当たり前になっていることに驚きました。また、国の法律が他の国の文化に影響して、自由に暮らすことができない人もいることが分かりました。



夏休み ご家庭でのスマホ、ゲーム等の約束を確認しておきましょう。

① ネットでのいじめがないか、いつも気をつけておきましょう。

ネット上のいじめが増加しています(右ページ②参照)。子どもの様子をよく見て、気になるときは子どものスマホ上のやりとりも確認するようにしてください。

② スマホやゲームのもつ「依存性」について知りましょう。

スマホやゲームへの依存の仕組みは、ギャンブルや薬物への依存と同じです。そして、ネット上のコンテンツは、手にすればやめることができなくなる様々な仕組みを組み込まれています。便利さだけでなく、こういった問題点を知った上で使用することが必要です。

③ 生活習慣への影響、特に睡眠への影響を十分に考えて、指導をお願いします。

睡眠のリズムが崩れると、心身に様々な影響をおよぼします。例えば、脳内神経伝達物質であるセロトニン等の分泌も不全を起し、メンタルに支障をきたします。ゲームやスマホの夜間使用による睡眠不全が、イライラや感情の不安定につながると言われます。この怖さを、子どもにしっかりと伝えていきましょう。(右ページ①参照)

④ 「スマホやゲームの時間」を「生活を充実させる時間」に変えていきましょう。

ネット上には、様々な有益なサイトもあります。しかし、受け身でそれらの情報(動画など)を見ても、1週間後に覚えている情報は、ほとんど残っていないと言われています。目的なくスマホに触れている時間を、家族団らんの時間、本を読んで成長する時間、心身を休める時間、運動して体を整える時間など、いろいろな方面に変えていくことを考えてください。

特に、子ども達と向き合う時間は、大切にしていきたいと考えています。子どもが親に話しかけてくれる時間は、今この瞬間にも、少しずつ少なくなっています。スマホを置いて、子どもの目を見て、話して、ふれあいの時間を大切にしてくださいませよう、お願いします。

⑤ 家庭のきまりをよく話し、使い方を見届け、守らせてください。

ゲームもスマホも、使い方を大人がしっかりとコントロールすることが非常に大事です。もしもスマホを与える必要があるのならば、子どもの将来を考え、本気でルールつくることを考えてください。スマホを使う際には、大人も子どもも、「ルールを決めて守ること」が、非常に重要となるようです。

右のグラフは、1日のゲーム時間と進学率の関係を表しています。ゲーム時間が長くなるほど学力が低くなるのが明らかになっています。しかし、注目してほしいのは、全くやらない子よりも、15分～30分程度やる子の学力が高いことです。これは「ゲームが悪いのではなく、きまりを守る自制心を育むことが学力に影響する」ということです。ルールを作り、守る、心の習慣は、ご家庭で大切にしてください。

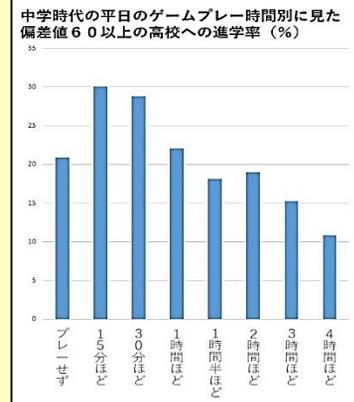


図1 慶応義塾大学研究調査資料より

参考資料 スマホやSNSを児童が使う際の、具体的な課題について

何事にも良い点と問題点があります。子どもの頃からSNSに触れることの利点も、様々に言われています。しかし、その利点はご家庭で十分にルールを話し合い、子どもはルールを守り、親は使用状況の把握と適切な助言をする。守れない時は子どもが約束の大切さを実感できるように話し合うなど、粘り強いご家庭での指導が必要です。

教育現場で感じる、児童のSNS使用がきっかけとなる問題点は、右図のようになります。これらは、スマホでのSNSに限った話ではなく、携帯ゲーム機でも同様に見られる問題点です。

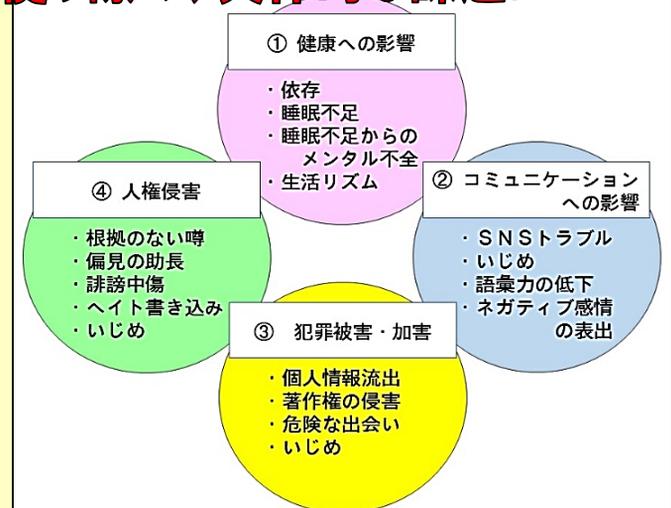


図2 児童のSNS使用による問題点の類別(友池作成)

① 健康への影響

ゲームやSNS自体には問題はありません。問題はそれを使う人間の側にあります。自制心を働かせて使用しないと、かなり依存性の強い道具であることは間違いないでしょう。

特にその結果、遅い時刻まで画面を見ることによる睡眠への影響は、極めて問題です。よく睡眠不足は学力に影響すると言われますが、それはごく一部の結果です。多数存在する睡眠不足の悪影響が重なり合って、生活の様々な面での不調につながります。

【睡眠不足の影響】

- ・病気リスクの向上
- ・脳機能が低下する
→集中力、判断力
記憶力、感情など
- ・太りやすくなる
- ・免疫力の低下
- ・ストレスの増加 等

② コミュニケーションへの影響

私たちは、誰かと会話をする時、言葉による情報よりも言葉以外からの情報（表情、仕草、ちょっとした間など）から、相手の気持ちを無意識に推し量ってコミュニケーションをとっています。文学などで、人物の心情を表現する際に、日本語には様々な描写を織り交ぜることで、伝わるがあるのでしょうか？これを「非言語（ノンバーバル）コミュニケーション」と言うの

ですが、音声言語情報よりも、非言語情報による影響が9割を占めていると言われています。文字情報や音声情報だけのやりとりとなるSNSでは、非言語情報の不足により、相手の心情を感じることができなくなります。そのため、すれ違いが生じたり、感情的な責め合いが止まらなくなったりしてしまいます。また、匿名性があることや閉鎖したグループを作りやすいことなども、全ての人にとって、他者への攻撃性を強めてしまうことにつながりやすいと考えられます。全国のネットでのいじめの認知件数は、2020年で18,870件に上ります。



図3 パソコンや携帯電話などを使ったいじめの認知件数 (文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」)

③ 犯罪被害、加害

メディアリテラシーの専門家によれば、SNSへの投稿は「自宅の玄関に全ての個人情報を書いた紙を貼っておくような行為」と同じことだそうです。当然、悪意のある人からの接触機会も多くなります。右は、令和3年度に警察庁が発表した、「罪種別の犯罪被害児童の推移」を表すグラフです。子どもが巻き込まれる犯罪は、この数年はコロナ禍での外出自粛で減少しましたが、年々増加傾向にあります。子どもが知らずに投稿した内容が著作権や個人情報の侵害となり、訴訟につながるケースも生じています。スマホだけでなく、携帯ゲーム機など、低学年児童でも日常的に触れている機器が使われるケースも多くなっています。

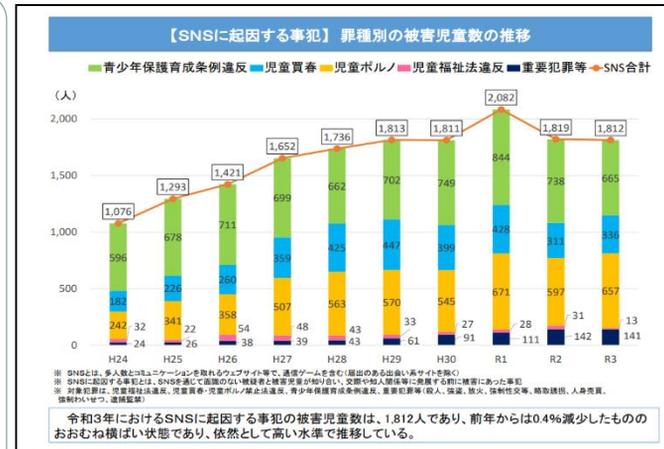


図4 罪種別の被害児童数の推移(警察庁 令和3年)

被害が多いSNSは順に、Twitter、Instagram、TicTok、等のよく知られるアプリが多いです(令和4年度調査)。昨年上位だった、「ひまぶ」はすでになく、代わりに「Yay!」「KoeTomo」が上位に入ります。新しいアプリが常に登場しており、大人も情報交換しながら把握する必要があります。

④ 人権問題

インターネット上は、差別情報であふれています。人はネガティブな情報に流される傾向がありますので、簡単に信じてしまう人が後を絶ちません。ましてや、子どもたちが初めて触れる情報が、差別や偏見に満ちたものであったら、そこで起こる『刷り込み』の影響を考えると恐ろしくなります。

昔から、差別が広まってしまう背景には、「人がそういっている」という噂、落書きや匿名の投書などの匿名性を利用した行為がありました。場所がネット上変わった今も、この差別拡大の仕組みは残り続けています。

差別的な情報は、さも事実であるかのように装って、身近に現れます。しかし、少しでも違和感を覚えたら、信じたり人に伝えたりする前に、情報源を確かめたり、事実を多面的に見たりしていくことが大切です。大人のそのような姿勢が、子どもを差別の世界から救い出します。